

第1章 理念・目的

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	点検・評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで箇条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(1) 文学部の理念・目的は適切に設定されているか						
a ◎学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること。 ◎高等教育機関として大学が追及すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること。 【約500字】	文学部の教育理念は「究極的には人間そのものを総合的に理解すること」としている。これを踏まえ、学位授与方針を定め、その中において確固とした専門知識の習得を不可欠の前提としながらも、その専門分野のみに偏ることのない広い視野に立ち、公正かつ確かな判断を下すことのできる人材の育成を目標にして掲げている。そして、これら学部の理念・目的は、学科ごとに学則別表9において「人材養成その他の教育研究上の目的」として定めている。文学部は、文学・思想・芸術・メディアなどにおける諸事象を論理的に分析し、その本質を客観的に判断できる能力、また自らの思考をメッセージとして発信できる力を涵養することを目標としている。史学地理学科は、史料・外国語文献の読解・分析能力、現地調査・遺跡調査等の能力を獲得し、自然や人間世界を歴史的・地理的に認識し、多角的に思考し、豊かな国際感覚をもって、積極的に行動できることを目標としている。心理社会学科は、人間の「心と社会の問題」の探求を本旨とし、「生きやすい社会」のあり方を求めて、共生する社会を模索しつつ、「心」を個人の内的問題としてではなく、病理を生み出す「社会」の関わりで思考してできる人材の育成を目標としている。これら基本理念、目指すべき人材像、目的は、学校教育法を踏まえ、適切に設定している。					
b ●当該大学、学部・研究科の理念・目的は、建学の精神、目指すべき方向性等を明らかにしているか。 【約100字】	目指すべき方向性として、事物の本質を客観的に判断できる能力を培い、それらを積極的に自らのメッセージとして、広く世界へと発信できる学生の育成を目的としている。					
(2) 文学部の理念・目的が、大学構成員（教職員及び学生）に周知され、社会に公表されているか						
a ◎公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること。 【約150字】	学部の理念・目的については、受験生を含む社会一般に対する公表としてホームページ【1-5-1】のほか、大学ガイドブック、文学部ガイド【1-5-2】、また進学相談会やオープンキャンパスなどのイベントを通じて情報を公開している。学科ごとの教育理念を学部便覧に記載して大学構成員の誰もが把握できるようにし、かつ学生にはガイダンスにおいて指導して、周知・徹底を図っている。					①現状の説明 1-5-1 文学部ホームページ（文学部）「概要：文学部とは」 1-5-2 2014年度文学部ガイド（抜粋）

点検・評価項目	現状の説明	点検・評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p> <p>C列の点検・評価項目について、必ず記述してください</p>							
<p>(3) 文学部の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか</p>							
a	<p>●理念・目的の適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。</p> <p>【約300字】</p>	<p>理念・目的の適切性の検証について、毎年度、「教育・研究に関する年度計画書」の作成時に、各専攻からの意見を聴取し、社会情勢や学生の学修実態に即して「教授会」において見直しを行っている。</p>					<p>①現状の説明 1-5-3 2013年度第3回文学部教授会議事録</p>

第3章 教員・教員組織

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 G列の点検・評価項目について、必ず記述してください	点検・評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで箇条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(1) 文学部として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか						
a ●<教員像と教員組織の編制方針> 専門分野に関する能力、教育に対する姿勢等、大学として求められる教員像を明らかにしたうえで、当該大学、学部・研究科の理念・目的を実現するために、学部・研究科ごとに教員組織の編制方針を定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約400字】	文学部の求める教員像は、学部の教育理念として「充分な専門知識を備えた幅広い教養人の育成」を掲げており、その目標達成に貢献し得る教員としている。 教員組織の編制方針は、「教育・研究に関する年度計画書」において次のように明示し、これらを教授会で承認することで共有している【3-1-2:98頁】。①教員の募集・任免・昇格において、個別案件ごとに人事選考委員会を設置して、科目適合性を教育・研究両面において厳正・公正に審査し、かつ透明性を保証する。②主要授業科目に専任教員を配置し、適材適所に務める。科目教育においては、その性格に応じた人的補助体制を整備するとともに、教員・職員間の連携を高めてその点検、整備を常時行う。③適正な専任・兼任率、年齢構成を実現する。④教員間の教育・研究面での相互チェックならびに啓発を行えるような制度環境を実現する。⑤実務家型教員の配置を行うことで、教育・研究面での充実を図る。⑥外国人研究者・海外で学位を取得した日本人研究者を積極的に受け入れ、教育・研究面での国際性を強化する。⑦教員の適正なジェンダー・バランスを実現する。					①現状の説明 3-1-2 2014年度教育・研究に関する年度計画書、98頁《既出1-1-11》
b ◎<基準の明文化、教員に求める能力や資質の明示> 採用・昇格の基準等において、法令に定める教員の資格要件等を踏まえて、教員に求める能力・資質等を明らかにしていること。 【約150字】	教員の募集・任用・昇格にあたっては、文学部教授会が「文学部における教員の任用及び昇格審査基準」【3-5-1】を定め、明文化している。これは、文学部が教員に求める専門的能力、業績、教育的能力、資質を明確にしたものであり、その運用は「採用人事選考委員会についての運用細則」【3-5-2】によって厳正に行われている。					①現状の説明 3-5-1 文学部における教員の任用及び昇格審査基準 3-5-2 採用人事選考委員会についての運用細則
c ◎<組織的な連携体制と責任の所在> 組織的な教育を実施する上において必要な役割分担、責任の所在を明確にしていること。 【約300字】	文学部は、専攻にかかる専門教育部門、学科専攻横断的・基盤的な教養教育部門、そして資格課程にかかる教育部門の大きく3部門から成り立っている。これら3分野について、専門教育を行う教員が基礎・教養教育にも携わり、基礎教育と専門教育の連携に努めている。各専攻の専門性と関連の強い基礎教育に関しては専攻・学科の独自性を尊重している。 学部全体の体制としては、学部を設置された「教務課題検討委員会」「人事計画委員会」がこれら諸問題の検討を行い、選挙によって任命された学部長を筆頭責任者として、各学科長および教務主任によって構成される役職会において審議され、最終的には教授会の承認を得ることで責任体制を明確にしている。専任教員（特任、助教は除く）をメンバーとする文学部教授会のもとには役職会メンバーおよび各専攻・セクション責任者で構成される「学部運営協議会」が設置され、さらに常設の委員会として7つの委員会が活動している【3-5-3】。					①現状の説明 3-5-3 文学部各種委員会名簿

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、 必ず記述してください	点検・評価		発展計画		根拠資料 Alt + Enterで箇条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
(2) 文学部の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか						
教員の編成方針に沿った教員組織の整備						
a ◎当該大学・学部・研究科の専任教員数が、法令(大学設置基準等)によって定められた必要数を満たしていること。特定の範囲の年齢に著しく偏らないように配慮していること(設置基準第7条第3項) 【約400字】	設置基準上必要教員数は5733名に対し、専任教員数(資格課程所属教員を含む)は111名である。なお、助手は18名である。専任教員一人当たりの学生数は、収容定員ベースでは学生数3,100名に対して27.9名、学生現員ベースでは学生数3,373名に対して30.4名である【3-1-15:表13】。これは他学部と比較して少なく、少人数による実践教育を重視する文学部の基本理念に合うものである。 教員組織のバランスについては、専任教員の平均年齢は52歳で、2012年度は若干年齢の偏りはあったが、2013年度に30歳代6名、40歳代3名を任用したことにより各年代にバランスよく配置されている【3-1-15:表10】。また、助教については2012年度2名、2013年度1名、2014年度2名が採用され、現在の助教数は3名である。また、国際化の推進のため、外国人教員や海外で学位取得した日本人教員の任用を進めており、外国人教員は4名、海外で学位取得した日本人教員は7名在籍している。外国人兼任教員は21名在籍しており、2013年度は外国の客員教授を1名増員した。新規採用においてはジェンダー差別のないよう徹底した公正化が図られており、2014年度採用で女性2名を採用(女性1名定年退職)し、文学部全専任教員に占める女性の割合は23.4%(26名)となっている【3-1-15:表14】。女性兼任教員は339名中120名(35%)、助手では22名中6名(27%)である【3-1-15:表94】。これは、学部学生の男女比が1対1ということもあり、学部の特性に適応した女性教員を任用しているといえる。		一部の専攻では40歳以下の若手教員が少なく、年齢構成の偏りが見られる。また、学科によって女性の専任教員数に偏りが見られる(文学科15名、史学地理学科3名、心理社会学科3名、教養2名、資格課程2名)。		文学部の各学科・専攻の専門的多様性及び教育の質を維持することを念頭に入れつつ、専任教員の年齢分布のバランスを図っていく。また、専攻間におけるジェンダー・バランスを考えていく。	①現状の説明 3-1-15 明治大学データ集 表10 表13 表14 表94 《既出2-3》
b ◎方針と教員組織の編制実態は整合性がとれているか。 【600~800字】	資格別担当授業時間の平均は、教授13.1時間、准教授13.2時間、専任講師12.7時間、助教5.0時間である【3-1-15:表12】。学部開設科目に占める専任教員の担当科目の比率(専任比率)は、専任教員111名が48.3%(768コマ)を担当し、兼任講師339名が51.7%(821コマ)の科目を担当している。専攻必修科目の多くを専任教員が担当する一方、自由選択科目では兼任講師による多様な講義が行われている【3-1-15:表16】。兼任率の高さは各専攻の専門性と広汎性の重視によって必然的に科目数が多くなることに帰因しているが、兼任率は、2012年度の57.3%に比して5.6ポイント低下させている。 実務経験を重視して採用されたいわゆる実務家教員は、資格課程のうち教職部門に1名いるほか、教養課程の教員1名と心理社会学科臨床心理学専攻の全教員(6名)を合わせて7名は臨床心理士の資格をもち、カウンセリング業務も行う実務家型の側面を併せ持っている。さらに本学部では学内付属機関の教員組織と連携した教育も行っており、考古学専攻では専攻所属教員5名の他、学芸員養成課程担当教員2名、本学黒耀石研究センター特任教員1名、本学博物館学芸員2名が各所属組織の特性を活かしながら「考古学研究法」「考古学実習」等の少人数教育を指導しており、学芸員養成と研究者養成等に強みを発揮できる体制となっている。これらのことから、教員の編制方針と教員組織の整合は図られている。	兼任率を50%に近づけるようなバランス調整を行ってきた。心理社会学科では実務経験重視の方針に基づき、臨床心理士の有資格者を採用してきた結果、講義だけではなく実地見学や症例研究等の実践的教育が行われ、臨床心理士を目指す大学院進学希望者も増えている。	資格別担当授業数が、各資格間で、ほとんど差異のないものとなっている。	兼任率がさらに50%を下回るような調整を続けていく。心理社会学科の教員には、実践的教育の成果や自身の研究分野の発表の場として「心理社会学研究」「心理臨床学研究」への論文発表をさらに奨励していく。	①現状の説明 3-1-15 明治大学データ集 表12 表16 《既出2-3》	
教員組織を検証する仕組みの整備						
c ●教員組織の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【600~800字】	教員組織の検証プロセスについては、毎年度「教育・研究に関する年度計画書」において文学部長中期計画を策定している。また、毎年1月に学長から示される「教員任用計画の基本方針」に従い、役職者会と人事計画委員会において学部教員任用計画を策定している。「年度計画」の策定にあたっては、将来構想委員会と自己点検・評価委員会の意見を参考として、適切な人事が遂行されるように公正性と透明性に留意しながら教員組織を検証し、その編制方針の見直しを行っている。さらに「学部教員任用計画」の策定にあたっては、人事計画委員会や教務課題検討委員会の議を経て、将来構想や必要な授業科目の検証と合わせて補充・増員すべき教員の主要科目、資格を検討し、教員・教員組織の検証を行っている。なお、検証の結果は役職者提案として議題に上がり、教授会において審議される。そこで承認された後に「学部教員任用計画書」として、学長に提出される。					3-1 2013年度教育・研究に関する長期・中期計画書(文学部) 3-4 文学部各種委員会名簿

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 C列の点検・評価項目について、必ず記述してください	点検・評価		発展計画			根拠資料 Alt + Enterで箇条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画		
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述	
(3) 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか							
a ●<規定に沿った教員人事の実施> 教員の募集・採用・昇格について、基準、手続を明文化し、その適切性・透明性を担保するよう、取り組んでいるか。 【400字】	教員の募集・任用・昇格にあたっては、大学で定める諸規程に基づき、文学部教授会が「文学部における教員の任用及び昇格審査基準」【3-5-1】を制定し、さらに「採用人事選考委員会についての運用細則」【3-5-2】によって行うことで、厳密に運用している。 専任教員の採用は公募を原則とし、その都度「人事選考委員会」を設置して選考を行う。「人事選考委員会」は当該専攻等2名、他専攻3名の委員からなり、委員会の設置と委員構成は教授会の了承を得なければならない。人事選考委員に他専攻の教員が加わることで厳正な選考が行われ、応募者の研究教育能力や実績が明確化され、複数の委員の協議によって適切に判定し得るようになってきている。選考にあたっては特に近年（過去5年間）の教育研究能力と実績に重点が置かれている。また、研究業績と科目適合性を審査するほか、提出資料に教育・授業実施計画の提出を求め、さらに面接において当該専攻教員のほかに他専攻の教員が試問に当たることによって、大学教員として相応しい教育能力を備えているか吟味している。 助手については、公募により選考委員会が面接を行い選考している。兼任教員および客員教授の採用については、各学科において科目適合性と業績等適任性が判断され、最終的に教授会において決定されている。 また、昇格人事についても、「文学部における教員の任用及び昇格審査基準」にしたがい、採用人事に準じた委員会を設置して審査している。	他の専攻の教員が人事選考に加わり【3-5-2】、複数の委員で協議することによって、狭い専門領域だけに偏らない公正で均衡の取れた人材が確保されている。		今後も専攻をまたいだ審査委員会を構成し、専門分野の研究実績のみならず、人間性や教育力を重視した採用を継続していく。			①現状の説明 3-5-1 文学部における教員の任用及び昇格審査基準 3-5-2 採用人事選考委員会についての運用細則 ②評価・発展計画 3-5-2 採用人事選考委員会についての運用細則
(4) 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか							
教員の教育研究活動等の評価の実施							
a ●教員の教育研究活動の業績を適切に評価し、教育・研究活動の活性化に努めているか。 【400字】	社会貢献や社会連携活動の一種である行政などの外部組織の委員就任については、教授会の承認を得ることを要件とし、周知を含めて厳正な取り組みを行っている。また、社会貢献等の諸活動については、毎年大学ホームページ（資料3-10）に専任教員の研究・教育・社会的活動・学会活動などを掲載して透明性を高めている。研究活動では、『文芸研究』『駿台史学』『心理社会学研究』『心理臨床学研究』への論文発表を奨励し、査読審査を経た上で掲載、公開している。		教育研究活動の評価は必ずしも十分とは言いがたく、社会貢献や実務業績の評価、教育貢献の評価指針の明確化が今後の課題である。		教授会およびホームページにおいて積極的に周知させた上で、適切な評価を行う。	①現状の説明 3-5-4 文学部HP (http://www.meiji.ac.jp/bu/ngaku/teachingstaff/index.html) 3-8 本学概況資料集、65頁	
教員の資質向上のための研修・諸活動（FD）の実施状況とその有効性							
b ●教育研究、その他の諸活動(※)に関する教員の資質向上を図るための研修等を恒常的かつ適切に行っているか。 (※)社会貢献、管理業務などを含む『教員』の資質向上のための活動。『授業』の改善を意図した取組みについては、「基準4」(3)教育方法で評価します。 【600~800字】	これまで、継続的に、教育や学生指導に関わる教員の資質向上のために、学生相談の専門家（臨床心理士）や司法の専門家（弁護士）を招いて、「問題ある学生対応のための研修会」「個人情報保護のための研修会」「セクシャルハラスメント防止のための研修会」を行ってきたが【3-5-5】、2013年度も10月21日に「明治大学におけるキャンパス・ハラスメント対応の現状」についての研修会を開催し、また、研究に関わる資質向上のために、「科研費申請に関する勉強会」【3-5-6】や研究倫理の理解のための研修会を行った。 高等教育、管理運営に関する教員の資質向上として、国庫助成推進委員会が存在しており、担当委員が学内の研修会の他、全国組織の研修会に参加している。また、専任教員の国際交流も非常に活発で、海外の大学・研究機関との学術交流や招聘講演を通じて、海外の大学・研究機関の在り方にも通暁している。 さらに毎年8月末には、役職、各種委員会委員長、教務委員を交えた研修会（文学部研修会出席30名）を開催し、教育や学生相談・研究・社会貢献・高等教育、管理運営について、総合的に理解を深める研修を行っているが、2013年度も8月26日に開催されている【3-5-7】。					①現状の説明 3-5-5 文学部教授会議事録（2013年2月18日開催） 3-5-6 文学部教授会議事録（2013年10月21日開催） 3-5-7 文学部研修会	

第4章 教育内容・方法・成果 (1) 教育目標, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針

点検・評価項目	現状の説明	点検・評価		発展計画		根拠資料
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に 対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。						
(1) 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか ※「教育目標, DP, CP」の全文記載は不要です。根拠資料でご提示ください。						
a	◎理念・目的を踏まえ、学部・研究科ごとに、課程修了にあたって修得しておくべき学習成果、その達成のための諸要件(卒業要件・修了要件)等を明確にした学位授与方針を設定していること。 【約800字】	学則別表9において「究極的には人間そのものを総合的に理解すること」を教育目標として、さらに「十分な専門知識を身につけた幅広い教養人の育成」を教育方針として明示している【4(1)-1-97】。これを踏まえて学位授与方針において、『人間の生き方』『人間社会の成り立ち』『人間の心と社会の問題』を中心課題に据えながらも、人間の『知性』と『感性』と『実践』の相関を究明し、それらを自らの言葉で発信していく力を養うことを通じて、新しい時代に対応できる創造的かつ人間性豊かな教養人の育成を到達目標としている【4(1)-1-66】。なお、すべての専攻が1年次からの演習を設定するとともに卒業論文を卒業要件に含め、128単位の基準を満たした者に「学士(文学)」の学位を授与している。				①現状の説明 4(1)-1-66 3つのポリシーの表記の確認について(回答)(教務部委員会資料, 2013年11月26日開催) 「3つのポリシー」の内容の見直し、およびその承認(文学部教授会2013年11月11日開催議事録, 議題7) 4(1)-1-97 明治大学学則別表9《既出1-1-8》
(2) 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか ※「教育目標, DP, CP」の全文記載は不要です。根拠資料でご提示ください。						
a	◎学生に期待する学習成果の達成を可能とするために、教育内容、教育方法などに関する基本的な考え方をまとめた教育課程の編成・実施方針を、学部・研究科ごとに設定していること。 【約600字】	学位授与方針に示す目標を達成するため、「教育内容や教育方法の基本的考え方」として教育課程の編成理念や編成方針、特長を明らかにした「教育課程編成・実施の方針」が教授会において定められた(2010年9月27日)【4(1)-5-1】。2013年度には、この方針が再度見直され、時代の要請に沿った新たな教育課程編成・実施方針が策定された(2013年11月11日開催)【4(1)-5-3】。文学部は3学科、13専攻においてそれぞれ特色ある教育内容を設定しているが、文学部はおもに文学作品やコミュニケーションを通して、史学地理学科は過去から現在までの歴史を生きた人びとの姿を探求することを通して、心理社会学科は個人の内面と集団としての社会の側から、いずれも社会の主体である人間を多角的に理解することを目的としている。そうした人間理解を実践する力として、専門性と教養の双方の獲得を学生に求めている。また、各専攻はそれぞれの専門領域の特性にもとづく教育方針を設定している。				①現状の説明 4(1)-5-1 文学部教授会議事録(2010年9月27日), 議題15 4(1)-5-2 文学部教授会議事録(2013年3月4日), 議題14 4(1)-5-3 文学部教授会議事録(2013年11月11日), 議題7
b	●学位授与方針と教育課程の編成・実施方針は連関しているか。 【約200字】	学位授与方針では、十分な専門知識を身に付けた幅広い教養人の育成のためと謳い、教育課程の編成方針ではそれを踏まえて、「人間とは何か」という問題に多角的に取り組むため十分な専門知識と幅広い教養を身に付けることを目的としており、学位授与方針と教育課程の編成・実施方針は密接に関連していると判断する。				
(3) 教育目標, 学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針が, 大学構成員(教職員及び学生等)に周知され, 社会に公表されているか						
a	◎公的な刊行物, ホームページ等によって, 教職員・学生ならびに受験生を含む社会一般に対して, 学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針を周知・公表していること。 【約150字】	文学部ホームページ【4(1)-5-4】並びに印刷物である学部ガイド【4(1)-1-3, 3~6頁】, 学部便覧【4(1)-1-7, 7~8頁】, シラバス【4(1)-1-22】で学位授与方針, 教育課程の編成・実施方針を周知・公表している。また, 毎年4月初旬に1年次と3年次に行われるガイダンスを通じて, 学生にも周知徹底を図っている。外部に対しては学部ホームページ及び学部ガイドにより公表している。				①現状の説明 4(1)-1-3 2014年度各学部ガイド[ファイル綴じ]※2013年6月発行, 3~6頁 4(1)-1-7 2013年度学部便覧, 7~8頁 4(1)-1-22 2013年度文学部授業計画(シラバス) 4(1)-5-4 文学部ホームページ「文学部とは」:URL (http://www.meiji.ac.jp/bungaku/policy/01.html)

点検・評価項目	現状の説明	点検・評価		発展計画		根拠資料
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に 対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を 評価する項目です。	C列の点検項目について、必ず記述してください					Alt+Enterで箇条書きに
(4) 教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか						
a ●教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約400字】	教育目標、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針の適切性を検証するため、現職の教務主任および学部役職（学科長、教務主任、学生部委員）の経験者計7名からなる「自己点検・評価委員会」を設置し、各年度の報告書の作成とともに定期的に理念と現況の整合性を検証し、問題点の改善に努めることで適切性の維持を図っている。2013年は4月22日、5月13日、5月22日に委員会が開催された【4(1)-5-5】。また、2013年3月4日開催の教授会においては、3つのポリシーの適切性が検討された【4(1)-5-6】。さらに、2013年11月11日開催の教授会では、この3ポリシーについての見直し案が検討され、承認された【4(1)-5-7】。					①現状の説明 4(1)-1-66 3つのポリシーの表記の確認について(回答)(教務部委員会資料, 2013年11月26日開催) 4(1)-5-5 文学部自己点検・評価委員会(2013年4月22日, 5月13日), 配付資料 4(1)-5-6 文学部教授会会議事録(2013年3月4日) 議題14 4(1)-5-7 文学部教授会議事録(2013年11月11日), 議題7

第4章 教育内容・方法・成果 (2) 教育課程・教育内容

点検・評価項目	現状の説明	点検・評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>							
<p>(1) 教育課程の編成方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか</p>							
<p>必要な授業科目の開設状況</p>							
a	◎CPIに基づき、必要な授業科目を開設していること。 【600字～800字程度】	文学部は、教育課程の編成・実施方針において、「『人間とは何か』という問題に多角的に取り組むため、十分な専門知識と幅広い教養を身につけることを目指し」、カリキュラムの編成を行っている。「文学科」には6専攻（日本文学、英米文学、ドイツ文学、フランス文学、演劇学、文芸メディア）を、「史学地理学科」には5専攻（日本史学、アジア史、西洋史学、考古学、地理学）を、「心理社会学科」には2専攻（臨床心理学、現代社会学）を配置し、この3学科13専攻の学問領域を基本的な履修区分としつつ、総合的な教養力や学生の興味関心や能力に細かく対応し、バランスのとれた授業の配置を行っている【4(2)-5-1】。また、領域横断的な教養科目も多彩に設置している。このほか、所属する専攻以外の必修科目を選択科目として履修することができる。このように13専攻の特徴を活用しつつ、専攻横断型の履修により教育課程の編成・実施方針の示す「学生個々のキャリアビジョンに直結した幅広い能動的実践を、人文学という多様な学問の場で行うことができる環境の確保」を実現している。 本学部の総開設授業科目は1,099科目であり、教養共通科目492科目、外国語科目24科目、専門教育科目583科目である。専門科目は演習や講読、卒業論文等からなる専攻必修科目のほか、専攻選択科目、共通科目を設け、学科ごとに目標に応じて必要単位数が定められている【4(2)-1-1：表17】。なお、本学部の卒業に必要な単位数は128単位であり【4(2)-5-2、16～19頁】、学科間の格差や専攻ごとの不統一がないよう、バランスを考へて配分している。					①現状の説明 4(2)-1-1 明治大学データ集表17《既出2-3》 4(2)-5-1 文学部ホームページ「設置学科・コース組織図」：URL 4(2)-5-2 2013年度文学部便覧、16～19頁《既出4(1)-1-7》
b	◎幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていること 【200字～400字程度】	開設科目数の構成は一般教養的授業科目44.8%、外国語科目2.2%、専門教育的科目53.0%であり、専門教育的科目の割合が1/2以上に達するが、これは本学部の教育の中核が13専攻それぞれの少人数クラスに重点を据えていることと、各専攻がそれぞれの学問分野の特性に応じて多様な選択肢を専攻内に提供しているためであり、全体的には教養教育の充実も十分に考慮されている。共通選択科目を24単位以上必修とすることで、学生の選択の幅を広げ、自らの専攻科目とは異なる領域分野を積極的に学ぶよう学生に課している。そのほか、選択科目として「留学準備講座」を開講し、「海外留学促進プログラム」の充実化をはかっている。 その他、本学部の特徴的なプログラムとしては以下のものがあげられる。英米文学・ドイツ文学・フランス文学の各専攻は、TOEFL-iBT®80以上、独検準1級、仏検準1級をStep4に位置づける目標レベルを示した「ランゲージプログラム」を設けている。また、演劇学専攻の学生が主体である「明治大学シェイクスピアプロジェクト」による演劇が毎年上演されており、これは、他専攻や他学部の学生を交えたプロジェクトを通じ、学んだ教養を現場で実践する場となっている。アジア史専攻及び現代社会学専攻は、海外ゼミ合宿を実施し、習得した知識の現場性を発揮するとともに、学生間交流を通じて異文化理解の推進に役立っている。【4(2)-5-3】	専攻ごとの専門性と広範な知的教養の習得を両立させるという教育目標を達成するために、専門科目や必修科目を精選することによって共通（教養）科目や選択科目の幅を広げ、学科や専攻を横断する幅広い教養を形成する機会が提供できている。基礎的教養力を得たうえで4年次に卒業論文に取り組めるように配慮されたカリキュラム体系が整備されている。	語学科目が、受講生の語学力別ではなく専攻別に編成されているため、特に語学力のある学生を選抜して語学トレーニングを行うことが困難な状況にある。	カリキュラム検討委員会、教務課題検討委員会等が中心となり、現行の教育課程の適切性を常に点検し、必要に応じて改正していくことが必要である。	語学力のある学生を選抜した語学トレーニングについては、2015年度を予定するカリキュラム改訂において導入すべく検討を進めている。	4(2)-5-3 文学部便覧33～93頁「学部開設科目」 4-2-2 文学部便覧16～19頁「卒業に必要な単位」
<p>順次性のある授業科目の体系的配置（履修体系図やコース系統図の明示、科目相関図、4年間の履修モデル、適切な科目区分など）</p>							
c	●教育課程の編成実施方針に基づいた教育課程や教育内容の適切性を明確に示しているか。（学生の順次的・体系的な履修への配慮） 【約400字】	順次的・体系的な履修への配慮として、1・2年次には各専攻の専門分野を学ぶ基礎力をつけるための「概説科目」が必修で設置されている。また、1年次の「基礎演習」から4年次の「卒業論文」まで、少人数によるゼミナール形式の専門教育を実施し、3年次の演習と4年次の卒業論文は専門教育の中核とし、順次的な科目編成となっている。3・4年次の学生に対しては、自らの関心や課題にあわせて専門知識を高めることができるよう、専攻ごとに多様な選択科目を設置している【4(2)-1-5、81～94頁「各専攻カリキュラム体系図」】。学科・専攻ごとの科目の体系や履修モデルは、便覧【4(2)-5-2】、文学部ガイド【4(2)-5-3】、ホームページ【4(2)-5-1】で図示されている。専攻ごとの設置科目は次の通りである。 （日本文学専攻）1年次に「基礎演習」を設定し、現代文と漢文を含む古典の読解力を身につけるとともに、演習科目「日本文学史Ⅰ」や語彙を中心とする「国語学Ⅰ」「作家作品研究Ⅰ」「中国文学研究Ⅰ」を2年次までの必修とする。「日本文学演習」は2年次からの必修であり、興味のある時代の文学への探求を強める一方、3年次においても講義科目を必修とすることにより、日本文学に対する総合的知識を獲得していく。 （英米文学専攻）英語科目では1・2年次に「基礎演習」「英語（会話・作文）」「英語（会話・作文）」「英語（講読）」及び「英語演習」で読む・書く・話す・聞くの基礎的能力を集中して鍛える。専門科目は英文学・米文学・英語学の3分野からなり、1年次に概論科目（例：「英語学概論A・B」）、2年次に分野毎の専門初級科目（例：「統語論A・B」、「音声学A・B」）、3・4年時には同中級、上級科目（例：「英語学研究A・B」、「形態音韻論A・B」）を配置している。専門演習は2・3年次に「英米文学演習」があり、4年次の「卒業論文」に連なるゼミナール形式の授業を行なっている。 （ドイツ文学専攻）ドイツ語科目は1年次から週2回のグラマー・リーディングを通じて基礎から学ぶ。専門科目はドイツ語力養成科目、文化関連科目、ドイツ語関連科目の3分野からなり、それぞれの基礎力を身につけたうえで、3年次に設けられた卒論予備ゼミで知識を発展させていく。 （フランス文学専攻）1年次にフランス語の基礎能力を身につけるとともに、フランスの文化や文学についての基本知識を学ぶ。2年次以降は、語学能力や研究能力をさらに磨いていくのと同時に、それぞれの興味や目標に合わせて、①「フランス語運用能力を高める」、②「フランス語の仕組みを学ぶ」、③「フランスやフランス語圏の文化や社会を学ぶ」、④「フランスの文学や思想を学ぶ」という4つのコースを中心に、カリキュラムを組んでいる。 （演劇学専攻）1年次に「基礎演習」を通じて演劇学の基礎を学ぶ。2年次からは「演劇学演習」で専門性を高めていく。また、必修の講義科目である「演劇概論」「日本演劇史」「西洋演劇史」「戯曲作品研究」を通じて、幅広いジャンルの知識を身につけていく。	科目区分と必要単位数、各学年ごとの履修単位数の上限を図表で示し、履修モデルを明示することで、学生がわかりやすく履修計画を立てられるようになっていく。 初年次から演習が配置され、また学年次ごとに専門性が高度化するように演習科目、講義科目が設置され、卒業論文作成に必要な知見と教養が段階的に得られる教育課程となっている。		各学年に配置された演習の中での学生の発表内容や提出されたレポート等から、順次的・体系的な学修がなされているかを専攻単位で点検し、教育課程や教育内容の適切性を継続的に検討していく。	①現状の説明 4(2)-1-5 2014年度明治大学ガイドブック《既出4(1)-1-1》 4(2)-5-1 文学部ホームページ「設置学科・コース組織図」：URL 4(2)-5-2 2013年度文学部便覧 4(2)-5-3 2014年文学部ガイド《既出4(1)-1-3》	

点検・評価項目	現状の説明	点検・評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画		
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>	<p>C列の点検項目について、必ず記述してください</p>					Alt+Enterで箇条書きに	
	<p>「戯曲作品研究」を通じ、幅広いジャンルの知識を身につけていく。 (文芸メディア専攻) 1年次は「文芸メディア概論」で文芸メディアのとらえ方を学び、「基礎演習」で〈読み〉の実際と研究方法を、「表現・創作Ⅰ」で文章表現の基礎と〈表現〉の諸相を身につける。2年次からは「文芸メディア演習」を軸に研究を進め、各自のテーマに沿って視野を広げていく。また、「テキスト研究」及び「テキスト講読」を通じ、〈読み〉の力を高度化させていく。 (日本史専攻) 1年次では「基礎演習」を通じて研究の基礎的方法を学習し、「史学概論」及び「日本史概論」で通史的な理解を身につける。2年次では「史料演習」を通じて史料の利用方法や読解力を学び、「文献講読」によって研究史の知識や学術論文を読む力を養う。研究の基礎的能力と通史的な理解を獲得したうえで、3年次の「演習Ⅰ」で専門とする時代や分野を確定し、卒業論文へとつなげている。 (アジア史専攻) 1年次は「基礎演習」で歴史文献の読み方を学び、「史学概論」で歴史学の基礎を、「アジア史概論」で通史を学習する。2年次の「史料演習」で中国語・漢文あるいはイスラムに関する英語文献を読み、歴史文献の読解力を高める。3年次の「文献講読」では外国語文献の読解力をさらに強化し、「演習Ⅰ」で専門分野の研究を進め、卒業論文へとつなげている。 (西洋史専攻) 1年次は「史学概論」で歴史学の基礎を、「西洋史概論」で通史を学習する。また、「基礎演習」で研究の基礎を学び、「原書講読」で英語文献を読む能力を高める。2年次の「史料演習」で、外国語文献の読解力をさらに発展させ、3年次の「演習Ⅰ」で専門分野について研究を進め、卒業論文へとつなげている。 (考古学専攻) 1年次の「基礎演習」では調査報告書や資料集成等の考古学的文献に触れ、学問の「思考法」を身につける。2年次の「考古学研究法」では明治大学考古学博物館所蔵の日本考古学を代表する資料に実際に触れながら、考古資料の観察分析記録法を体得する。講義科目としては1、2年次必修「考古学概論IA・B、IIA・B」の他、3・4年次では旧石器～歴史時代に至る各時代やオリエント、ヨーロッパ等の各地域の考古学専門科目が設置されている。選択科目ではあるものの、ほぼ全ての学生が履修する「考古学実習Ⅰ・Ⅱ」は、遺跡踏査の他、出土した資料の整理、実測、製図等、報告書作成にかかる一連の作業を実地に学び、4年次の「卒業論文」に結びつける科目である。こうしたカリキュラムに加えて、旧石器、縄文、弥生、古墳時代を対象とする、教員の研究プロジェクト(群馬県旧石器時代武井遺跡群、北海道旧石器時代白滝遺跡群、千葉県縄文時代曲輪内貝塚、茨城県弥生時代泉坂下遺跡、茨城県霞ヶ浦北西岸古墳群)が恒常的に稼働しており、3年次の「考古学実習Ⅱ」の充実に努めている。 (地理学専攻) 1・2年次には人文地理学、自然地理学、地誌学の入門科目や方法論に関する科目が置かれ、「基礎演習」により地理学の研究に基本的な知識と方法について学習する。また、「地理学実習Ⅰ」(日帰り～1泊2日実習数回)を実施し、フィールドワークの基礎力を養成する。3年次になると専門は人文分野と自然分野に分かれ、少人数で進められる「演習」と「地理学実習Ⅱ」(3泊4日)を中心に、各専門領域に関する学習並びに共同研究を行う。4年次には各自個人研究を行い、その成果により「卒業論文」を作成する。 (臨床心理学専攻) 1年次は「心理社会研究基礎演習Ⅰ」で研究の基礎を学び、「心理社会研究入門」により人間に関する心理学的な見方の基礎を養う。2年次は「心理社会研究基礎演習Ⅱ」及び「心理社会調査研究法」で研究の方法論を学ぶとともに、選択講義科目である「カウンセリング論」などの履修により、臨床実践の基礎的知識を習得する。3年次では「臨床心理学演習」「臨床心理学実習」など体験的科目を通じて臨床心理の技法を習得し、独自のテーマを見出して4年次の卒業論文へとつなげていく。 (現代社会学専攻) 1年次は「心理社会研究基礎演習Ⅰ」で研究の基礎を学び、「心理社会研究入門」により現代社会と人間に関する基礎的な見方を養う。2年次は「心理社会研究基礎演習Ⅱ」及び「心理社会調査研究法」により社会学の分析視覚や調査方法論を学ぶとともに、「環境社会学」や「情報社会論」を履修して現代社会の諸問題を考察する。3年次は「現代社会学演習」及び「現代社会学実習」で社会学の文献研究と実習を通じて現代社会に関する専門知識を深め、4年次の卒業論文へとつなげていく。</p>						

点検・評価項目		現状の説明	点検・評価		発展計画		根拠資料	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。		C列の点検項目について、必ず記述してください	効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画		Alt+Enterで箇条書きに
						(当年度・次年度対応) H列にあれば記述	(中長期的対応) H列にあれば記述	
教育課程の適切性の検証プロセスの明確化とその有効性								
d	●教育課程の適切性を検証するにあたり、責任主体・組織、権限、手続を明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか	教育課程の検証プロセスとして、語学教育の改善、共通選択科目の再編、導入教育の拡充等、カリキュラムの抜本的な見直しを含む長期的な課題については「カリキュラム検討委員会」において協議された。「カリキュラム検討委員会」は、2013年度は5回開催され【4(2)-5-5】、7月8日に2015年度新カリキュラムについての答申がなされた。この中で、共通選択科目の改定、「留学促進プログラム」の科目群の拡充、「キャリア・デザイン」の新設、「英語」の改編等、新カリキュラムに関する基本的な考えが示された【4(2)-5-6】。「教務課題検討委員会」では、この答申に基づいてその具現化を図っている。「教務課題検討委員会」は2013年度に8回開催され、上記課題の検討を進めたほか、外国語を含むすべての科目の半期化を実現した【4(2)-5-7】。	「留学促進プログラム」の充実に伴い、学生の留学に対する関心が高まっているのみならず、すべての科目の半期化されることにより実際に留学する機会が格段に増加することが期待される。		委員会における綿密な検討と全学部的意思統一のもとで、積極的に教育課程を再編強化していく。基礎的教養力の涵養及び段階的履修を重視した現状のカリキュラムの長所を維持しつつ、語学教育、キャリア教育を一層充実させた新カリキュラムについて、2015年度の実施を目指し、整備する。			①現状の説明 4(2)-5-5 カリキュラム検討委員会議事録(2013年4月22日, 5月20日, 5月27日, 6月24日, 7月8日) 4(2)-5-6 カリキュラム検討委員会答申(2013年7月8日) 4(2)-5-7 教務課題検討委員会議事録(2013年5月13日, 6月10日, 7月8日, 10月7日, 10月28日, 11月18日, 12月9日, 2014年1月20日)
(2) 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか								
教育目標や教育課程の編成・実施方針に沿った教育内容（何を教えているのか）								
a	◎何を教えているのか、どのように教育目標の実現を図っているのか。 【1200学程度】 ※教育の内容そのものですので、しっかりと説明願います。	専門教育に関しては1年次に全専攻が「基礎演習」を必修科目として設置し、研究調査やプレゼンテーション、討論のスキルを習得させている。2年次については専攻の特色に応じて原書講読、史料演習、文献講読などの演習科目を設定し、専門分野の必須の研究方法を習熟させている。3年次に演習・実習で本格的な研究指導を行い、4年次の卒業論文で研究成果を集約させ、これを学位授与の第一条件としている。また文学部のすべての専攻では、それぞれの学修において欠くことのできない概論的な科目を必修と定めるほか、外国語科目、ウェルネス科目を必修としている。さらに全学科において専攻選択科目12単位、共通選択科目24単位を卒業要件に含めており、他学部履修科目等と合わせて特定領域に偏らない幅広い教養の確立に導いている。なお、基礎教養の十分な習得を重視し、2年次終了時に卒業要件に必要な科目を40単位修得しないと3年次進級を認めていない。このほか、学部予算にもとづき語学関連の各種検定試験を受験料の助成を行うほか、海外ゼミ合宿や博物館見学も実施している。専攻別の教育内容は以下のとおりである。 (日本文学専攻) 日本文学専攻は、現代を重視する立場に立ちながら、古典から近現代までを視野に入れた日本文学の研究を行うことと、世界の文学という広い視野から日本文学の特徴を考えていくことを重視している。そして『万葉集』など上古から現代にいたる文学作品のほか、日本の文学に強い影響を与えた中国文学を学ぶための「中国文学研究」や日本語の構造を理解する「国語学」を設置し、バランスのとれた知識を習得したうえで専門の研究ができるように導いている。 (英米文学専攻) 英米文学専攻では1～4年次を通して、英語の4技能(スピーキング、リスニング、ライティング、リーディング)の運用能力向上を目指し、各技能について系統的、段階的に学べるよう科目を配置している。またネイティブスピーカー教員によるクラス、日本人教員によるクラスを効果的にミックスし、技能の向上に寄与する工夫を行なっている。各技能において学生自身に自らのポジショニングを確認させることで更なる学習効果を得ようとする試みがELP(English Language Program)で各段階に目標値を設定している。 (ドイツ文学専攻) ドイツ文学専攻は、ドイツ語のインテンシブな学習を希望する学生向けに「ドイツ語演習」などドイツ語力養成を中心とした科目を設置し、「ドイツ文化演習」や「異文化理解」などドイツ語圏の文学や文化を中心とした分野にも重点を置いており、言葉と文学・文化のバランスの取れた学習を可能としている。 (フランス文学専攻) フランス文学専攻は、基礎から上級、特別資格にいたる「フランス語講読」「フランス語会話」を設置し、実用的な語学力を身につけ、さらに「フランス文学研究」「フランス史」「現代フランス研究」などフランス文化全体を理解する科目を用意している。 (演劇学専攻) 演劇学専攻は、人間の文化としての演劇の本質を、日本及び外国のさまざまな演劇について歴史的、理論的に探究している。そして上演台本としての戯曲、舞台装置、衣装、俳優	初年次から演習が配置され、また学年次ごとに専門性が高度化するように演習科目、講義科目が設置され、卒業論文作成に必要な知見と教養が段階的に得られる教育課程となっている。このように段階的な教育課程となっていることで、学生は各学問分野の基礎から高度に専門的な領域までを無理なく学べるようになっている。		学生がその学修状況に見合った内容を段階的に無理なく学べているかどうかを、授業改善アンケート等に基づいて継続的に点検する。なお、学生の習熟程度に見合った教育の提供という観点から、2015年度よりTOEICのスコアに基づいた英語のレベル別クラス編成を導入する予定である。			4(2)-5-8 文学部ホームページ カリキュラム (http://www.meiji.ac.jp/bungaku/tokusyoku/curriculum.html) 4-(2)-5-9 文学部便覧14～25頁「履修」

点検・評価項目	現状の説明	点検・評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画		
					(当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>	<p>C列の点検項目について、必ず記述してください</p>					Alt+Enterで箇条書きに	
	<p>について歴史的、理論的に探究している。そして、上演台本としての戯曲、舞台装置、衣裳、俳優の演技など多様な面から演劇を理解させるため、「舞台芸術研究」や「劇場運営論」、「映画論」、「舞踏学」など豊富なジャンルの科目を設置している。</p> <p>(文芸メディア専攻) 文芸メディア専攻は、多様なメディアの修辞や文法に習熟することと同時に、新しいメディア環境の中で文章表現によって自己を実現していく「表現主体」を育てることをめざしている。そして、「読み」と「創作」にとどまらず「現代文化論」「批評理論」「パフォーマンス研究」など多様な選択科目を通じ、文字と人間の連関を多角的に理解できるように導いている。</p> <p>(日本史学専攻) 日本史学専攻は、2年次の「史料演習」及び「文献講読」を通じ、自分の目で史料や先行研究を分析する能力を習得させ、実証的で斬新な研究視覚を構築するように指導している。古代から現代にいたるまで全時代を専任教員がカバーしており、3年次の「演習」において学生が学ぼうとする専門分野の選択を多様化させている。また、女性史や非文字史料の利用など新しい研究領域についても、「日本史特設」や「日本史特殊史料研究」を設置している。</p> <p>(アジア史専攻) アジア史専攻は、中国の古代・中世史から近現代史のみならず、朝鮮・韓国史からイスラム・トルコ史、モンゴル帝国史と幅広い時代・地域をカバーし、特に文献・史料の読解力に重点を置き、2年次の「史料演習」や3年次の「文献講読」により、外国語(中国語、漢文、英語)の読解力を養っていく。そのうえで、「演習」で各自がテーマを選択し、卒業論文の作成に導いている。また、複数のゼミが中国での海外合宿を行い、知識の現場性を高めている。</p> <p>(西洋史学専攻) 西洋史学専攻は、基本的な歴史研究の方法論から始め、徐々にその国の言語を学び、文献を読み解いて欧米諸国への理解を深める教育を行っている。異文化理解のためには言語は不可欠であり、1年次に「原書講読」を設置し、さらに2年次の「史料演習」で外国語史料の読解力を高めて基礎的な知識を習得させようとして、3年次の「演習」で専門分野を多様なジャンルから選択できるように導いている。</p> <p>(考古学専攻) 考古学専攻の対象は「人類の過去」であり、遺跡で検出された遺物・遺構や諸データから人類史を復元することを目的に教育を行っている。そのため、考古学の基礎的研究法の修得を重視し、発掘、整理、実測、製図、報告書作成等を演習科目、実習科目で修得し、卒業論文で統合化を図る。文献登場以後の時代の研究を行うために「古代史と考古学」、さらに理化学的な分析手法を含めた研究を行う「自然科学と考古学」を設置している。また、「考古学実習Ⅱ」のフィールドを確保するため、群馬県旧石器時代武井遺跡群、北海道旧石器時代白滝遺跡群、千葉県縄文時代曲輪内貝塚、茨城県弥生時代泉坂下遺跡、茨城県霞ヶ浦北西岸古墳群などの各時代を対象とする、教員の長期的研究プロジェクトが稼働しており、これら研究プロジェクトに参加することで、考古学特有の方法論を体得することができる。</p> <p>(地理学専攻) 地理学専攻では人文地理学、自然地理学、地誌学の概論を必修科目とし、地理学を総合的に把握できるようにしている。また、都市、地方、山岳と多様な地点での「地理学実習」を必修とし、フィールドワークを通じて「現場」でいろいろな問題性を観察し、様々な角度から考え、議論を重ねる中で地理学的な素養を深めていくことができるようにプログラムされている。</p> <p>(臨床心理学専攻) 臨床心理学専攻では、心理学全般についての学習と臨床心理学の専門的な学習をすることができるように科目を設置し、臨床心理学の実践に繋がるさまざまな体験学習を重視している。1年次と2年次では「心理社会研究基礎演習」と「心理社会研究入門」で心理学全般、人間と社会の関係について学び、そうした基礎力のうえに3年次ではカウンセリングなどの「臨床心理学実習」を設置し、専門性を確保できるようにしている。</p> <p>(現代社会学専攻) 現代社会学専攻は、市民運動や市民活動の現場に触れながら実践的に社会学を学ぶ学問領域で、1年次と2年次に必修の「心理社会研究基礎演習」と「心理社会研究入門」、専攻選択科目の「市民活動論」や「環境社会学」などで基礎的知識を習得したうえで、3年次の「現代社会学実習」でフィールド調査や体験学習により現場から学び、さらに「ソーシャルワーク論」や「ジェンダー論」など、より専門性の高い選択科目を通じて現代社会の知識を深められるように科目が設定されている。また、複数のゼミが韓国で海外ゼミ合宿を行い、異文化体験や学生間の対話を行っている。</p> <p>ており、学部学生は「考古学実習」を履修することで、これら調査団に参加し、研究法を体得することができる。</p> <p>(地理学専攻) 地理学専攻では人文地理学、自然地理学、地誌学の概論を必修科目とし、地理学を総合的に把握できるようにしている。また、都市、地方、山岳と多様な地点での「地理学実習」を必修とし、フィールドワークを通じて「現場」でいろいろな問題性を観察し、様々な角度から考え、議論を重ねる中で地理学的な素養を深めていくことができるようにプログラムされている。</p> <p>(臨床心理学専攻) 臨床心理学専攻では、心理学全般についての学習と臨床心理学の専門的な学習をすることができるように科目が設定されているが、臨床心理学の実践に繋がるさまざまな体験学習を重視している。1年次と2年次では「心理社会研究基礎演習」と「心理社会研究入門」で心理学全般、人間と社会の関係について学び、そうした基礎力のうえに3年次にカウンセリングなどの「臨床心理学実習」を設定し、専門性を確保できるようにしている。</p> <p>(現代社会学専攻) 現代社会学は、市民運動や市民活動の現場に触れながら実践的に社会学をしようとする学問領域で、1年次と2年次に必修の「心理社会研究基礎演習」と「心理社会研究入門」、専攻選択科目の「市民活動論」や「環境社会学」などで基礎的知識を習得したうえで、3年次の「現代社会学実習」でフィールド調査や体験学習により現場から学び、さらに「ソーシャルワーク論」や「ジェンダー論」など、より専門性の高い選択科目を通じて現代社会の知識を深められるように科目が設定されている。また、複数のゼミが韓国で海外ゼミ合宿を行い、異文化体験や学生間の対話を行っている。</p>						

点検・評価項目	現状の説明	点検・評価		発展計画		根拠資料		
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述	
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p> <p>C列の点検項目について、必ず記述してください</p>								
<p>特色ある教育プログラムの内容とその効果（当該学部等固有のプログラムやG P探採事業など）</p>								
b	<p>●特色、長所となるものを簡潔に記述してください。 【200字～400字程度】</p>	<p>文学部独自の特色ある教育プログラムは、より高次の専門性を追求する学生に対して大学院設置科目の履修を認め、8単位を上限に卒業要件に含めている。また、16単位を上限に大学院の単位の先取り履修を認めている。このほか、英語教職専修のプログラムなどキャリアデザインプログラムも設定されている【4(2)-5-10, 23～25頁】。 2010年度より「海外ゼミ合宿制度」が開始された。この制度を利用したゼミの件数および参加した学生数は、2011年度2件21名、2012年度4件27名、2013年度1件7名といった具合に推移している【4(2)-5-11】。さらに、2012年度より語学研修も含めた短期留学（融合型プログラム）も認めるようにし、留学の促進を図っている。 考古学専攻、地理学専攻、臨床心理学専攻、現代社会学専攻は実習を必修科目に含めており、現場に即した知識の習得を実践している。日本史学専攻は新入生を対象にした明治大学博物館の見学会を実施し、学芸員の解説のもとで古文書を扱う体験を設定している。学部間共通総合講座における「明治大学シェイクスピアプロジェクト」によるシェイクスピア劇上演の企画運営には、演劇学専攻の教員と学生が中心で参画しており、専攻で身に付けた知識を実践の場で活かしている。この他、将来の職業選択もふくめ、自分の人生をどのようにデザインしていけば良いかを問う「キャリア・デザイン」を2015年度より卒業単位の中にも含める予定である。</p>	<p>考古学専攻をはじめとする4専攻に必修科目として配置された実習は、各学問分野の「現場」を学生が身を持って体験できるという点で、きわめて大きな教育的な意味を持つ。また大学院に設置された科目を履修することにより、学生はより高度な専門性をいち早く習得することができる。</p>	<p>政策経費の減額で海外ゼミ合宿への参加学生数の増加に制約が生じている。海外での実体験や学生間交流を維持・拡大するためにも予算額の増大が不可欠である。</p>	<p>実習を設置している専攻は、学生の提出するレポートや報告書等に基づき、毎年その教育効果を検証する。また、次年度以降のより効果的な実習のあり方を模索すべく、その検証結果を最大限に活用する。</p>	<p>海外ゼミ合宿の予算については、その必要性に鑑みて増額を検討する。</p>	<p>①現状の説明 4(2)-5-10 2013年度文学部便覧、23～25頁《既出4(1)-1-7》 4(2)-5-11 出張報告書（海外ゼミ合宿実施報告書） ②評価・発展計画 4(2)-5-12 出張報告書（海外ゼミ合宿実施報告書）</p>	
<p>学部間等における国際的な教育交流の内容とその効果（学部間協定、短期海外交流など）</p>								
c	<p>●特色、長所となるものを簡潔に記述してください。 【200字～400字程度】</p>	<p>2007年度の認証評価では、さらなる国際交流推進の必要性を指摘され、学部内に「国際交流委員会」を設置して改善を図ってきた。その結果、同委員会を中軸に「北京師範大学歴史学院」「ビーレフェルト大学言語学・文学部」「ハンベルグ大学人文学部」の3大学と学部独自の交流協定を、テンプル大学日本校とは単位互換制度の覚書を締結した【4(2)-5-13】。現在も協定校の開拓や海外との学術交流を進めている。さらに受け入れた外国人学生の学習環境を整える一環として、「日本語ライティングチューター」制度を2012年度より発足させ、留学生の日本語レポート執筆などを補助している。最後に、2014年度から特任教授を招聘し「留学準備講座」を開設した。ここでは、目的に応じた留学の多様なあり方から、英語圏での授業のシミュレーション、さらに留学先での日本文化の発信の方法までを学習させている。</p>		<p>2013年度の交換留学制度による受入数は10名、送出数は11名で、国際交流の実績としては高くない。また海外における短期語学研修の参加者もいなかった。</p>		<p>より多くの学生に留学をさせるため、特に英語圏の協定校留学において応募者が特定校に集中し、大学の持つ受入枠が効率よく使われていない現状を勘案しつつ、高い語学能力要件にも対応できる語学力向上を含め、留学支援のためのプログラムの構築の検討に着手していく。</p>	<p>短期語学研修については、海外での受入校を積極的に開拓し、文学部独自の協定・覚書の締結を目指す。</p>	<p>①現状の説明 4(2)-5-13 覚書</p>

第4章 教育内容・方法・成果 (3) 教育方法

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	C列の点検項目について、必ず記述してください					Alt+Enterで箇条書きに	
(1) 教育方法及び学習方法は適切か							
教育目標や教育課程の編成・実施方針と授業形態（講義科目、演習科目、実験実習科目、校外学習科目等）との整合性							
a	◎当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること 【約800字】	「十分な専門知識を備えた、幅広い教養人の育成」という教育理念に基づき、本学部での専門科目の授業形態は講義、演習、実習、講読などに分かれる。講義から得られた体系的な知識は、演習・実習・講読等を通じた学生の主体的な学習によって、より深く学生に定着することを目指す。専攻ごとに特性に合わせて設置内容が異なるが、学生数の適正規模を定め、そこから大きく外れないようにクラス数を設定している。特に演習・実習等の少人数クラスは実践教育を核とする文学部の最重要科目であり、適正規模（1クラス20名以下）を確保すべく、クラスの実態に即した適正配分を心がけている【4(3)-5-1, 19~23頁】【4(3)-1-75:表47】。 (日本文学専攻) 上古から現代の文学作品のみならず、日本の文化とも深く関わった漢文や国語学を科目に設定している。 (英米文学専攻) 「英語」科目と専門科目(英米文学, 英語学)の調和を図ったカリキュラムが提供され、いずれの系統においても段階的に高度になることを意識した科目配置がなされている。 (ドイツ文学専攻) ドイツ語能力の養成に加え、「ドイツ文化演習」などドイツ語圏の歴史や文化も科目に含めている。 (フランス文学専攻) フランス語能力の養成に加え、「フランス語圏表象文化」や「フランス史」など、多様な異文化を学ぶことを重視して科目が設定されている。 (演劇学専攻) 幅広い教養人の育成、また学問の実践性の確保のために「観劇」を取り入れている。 (文芸メディア専攻) 文字と人間との関わりを具体化するため、卒業論文に代えて小説などの卒業制作を認めている。 (日本史学専攻) 史料を読む能力を育成するとともに、史料や資料館を対象とするゼミ合宿を通じて現場で歴史を理解する機会を与えている。 (アジア史専攻) 朝鮮からトルコにいたるアジア全体を視野とする教養と、中国語や英語による外国語文献の読解力育成を重視している。また、海外ゼミ合宿により国際性を高めている。 (西洋史学専攻) 1年次からの「原書講読」など、外国語文献の読解力育成を重視している。 (考古学専攻) 教室で得た教養を実践するため、明治大学博物館で遺物を通じて学習するとともに、発掘現場での実習を実施している。 (地理学専攻) 人文地理、自然地理、地誌の総合的知識を習得するとともに、フィールドワークを実習として設定し、応用力と現場体験を通じて生きた教養を身につけさせている。 (臨床心理学専攻) カウンセリングなど実習を通じ、臨床心理学の知識と体験の融合を図っている。 (心理社会学専攻) 現代社会と人間との関係を現場で学ぶため、フィールドワークによる実習を実施している。	初年度からの演習形式の授業等において、教員は学生とコミュニケーションを図りながら学生の理解度、生活面も含めて指導を行っている。スチューデントレシオ30.4という適正な数字が、このようなきめ細やかな指導を可能にしていると考えられる(明治大学データ集, 表13-1)【4(3)-1-75】。	基幹科目の少人数制を維持するため、各年度の入学人数に即してクラス数の調節が必要になる。3月末の入学人数決定後、入学人数に即したクラス数の調整作業にあたっているが、少人数制が厳守できない事態が生ずることがある。授業担当者の選択を学生の任意に委ねる演習科目では、少人数クラスの適正人数に適合しない学生数となる場合がある。専任教員数の増員および助教の拡充により、少人数教育の実施が確実に実施できる態勢が望まれる。	初年度からの演習教育によって学生と教員がコミュニケーションを取りやすく、効果的な学修指導を継続的に進める体制を維持するとともに、GPAを活用した成績不良者へのフォローについてはより効果的な方法について検討する。	少人数制を維持すべく、3月末の入学人数決定後、必要があれば助教の責任担当コマ数の調整や、兼任講師の増員等をすみやかに行うようにする。	①現状の説明 4(3)-1-75 明治大学データ集, 表47 《既出2-3》 4(3)-5-1 2013年度文学部便覧, 19~23頁 《既出4(1)-1-7》 4(3)-1-75 明治大学データ集, 表13-1
b	●教育課程の編成・実施方針に基づき、各授業科目において適切な教育方法を取っているか。 【約400字】	英語教育では少人数による徹底指導クラスを設置して、学生の意欲に応えるようにしている。また、2015年度よりTOEICのスコアに基づいたレベル別クラス編成を実施し、学生のレベルに適した英語教育を行うことを計画している。未習外国語については時間割固定化を押し進め、学生が履修しやすいようにしている。なお、習熟度の低い学生のための基礎クラスあるいは補習クラスなどの新設が全学的に開始されている。 現場性と国際性の確保を重視し、専攻ごとの特色に応じてフィールドワークを実施している。地理学専攻・考古学専攻・現代社会学専攻は必修科目として学外での実習を実施しているほか【4(3)-5-2, 298頁「地理学実習」】、夏休休暇期間などに国内でゼミ合宿を行っている。また、海外の大学との交流や実地見学を中心に「海外ゼミ合宿」も実施されている。演劇学専攻では学問の実践性の確保のために「観劇」を取り入れている。					①現状の説明 4(3)-5-2 2013年度文学部授業計画(シラバス), 298頁「地理学実習」

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況の評価する項目です。</p>							
<p>履修科目登録の上限設定、学習指導・履修指導（個別面談、学習状況の実態調査、学習ポートフォリオの活用等）の工夫</p>							
c	<p>◎1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置が取られていること。(学部) 【約200字】</p>	<p>年次履修制限単位数は1年次46単位、2年次44単位、3年次44単位、4年次44単位である。現在のところ、再履修科目については16単位を限度に上限を超えて履修できることになっている。しかし、2015年度以降は、再履修科目も含めて1年間で履修できる単位の上限を改定することを教務課題検討委員会において検討している。なお、3年次への進級は40単位以上の修得を条件として定めている。つまり、1・2年次の基礎的な学修を一定以上済ませない限り、専門的な教育は受けられないようにしている【4(3)-5-1, 15~16頁】。</p>					<p>①現状の説明 4(3)-5-3 2013年度文学部便覧, 15~16頁《既出4(1)-1-7》</p>
d	<p>●履修指導(ガイダンス等)や学習指導(オフィサーなど)の工夫について、また学習状況の実態調査の実施や学習ポートフォリオの活用等による学習実態の把握について工夫しているか。 【約200字~400字】</p>	<p>履修指導は入学時における総合ガイダンスのほか、専攻別に学年ごとにガイダンスを4月に実施し、履修上の注意事項を周知している。全学を対象に学習支援室やTAの配置により、学生の発展意欲の向上や学習上の悩みなどへの相談に対応している【4(3)-5-3】。このほか、1年次から少人数ゼミを必修科目として全専攻に配置されており、担当教員により綿密な履修指導がなされている。</p>					<p>①現状の説明 4(3)-5-4 文学部ホームページ「学習支援室」</p>
<p>学生の主体的参加を促す授業方法（学習支援、TAの採用、授業方法の工夫等）</p>							
e	<p>●学生の主体的な学びを促す教育(授業及び授業時間外の学習)を行っているか。 【なし~800字】</p>	<p>学生の主体的な学びを促す授業方法として、学部全体として少人数ゼミが主体的な学びの場を提供しており、ゼミ合宿や博物館見学などフィールド学習も積極的に行っている。考古学専攻では教室で得た教養を実践するため、明治大学博物館で遺物を通じて学習するとともに、発掘現場での実習を実施している。また、演劇学専攻を基盤とする「明治大学シェイクスピアプロジェクト」によるシェイクスピア劇の上演会が毎年実施されている。これら特定の専攻におけるユニークな教育に加え、多くの専攻では、学生の調査研究について、その計画・立案からデータの解析に至るまでをTAがきめ細やかに支援する体制が整えられている。</p>					
<p>(2) シラバスに基づいて授業が展開されているか</p>							
a	<p>◎授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること。 【約300字】</p>	<p>シラバス作成においては、「授業の概要・目的」「授業回数(15回)ごとの授業内容」「履修上の注意点」「教科書・参考書」「評価の基準」を具体的に明記するようにフォーマットを示し、設置基準に基づく内容の充実と統一に努めている。なお、本学部では2011年度よりシラバス冊子は事務室での閲覧と教職員の便宜のみに対応して作成し、学生に対しては「Oh-o!Meijiシステム」を通じてパソコン、タブレット、スマートフォンから閲覧できるようにした【4(3)-5-5】。</p>					<p>4(3)-5-5 大学WEBページ oh-o!Meijiシステム「シラバス検索」 (https://oh-o2.meiji.ac.jp/portal/index/search)</p>
b	<p>●シラバスと授業方法・内容は整合しているか(整合性、シラバスの到達目標の達成度の調査、学習実態の把握)。 【約400字】</p>	<p>シラバスと授業内容の整合性については、シラバス作成時に全教員に準拠を求め、具体的な授業計画と成績評価法などを明示するように求めている。また、兼任講師に対しては、教育懇談会の中でシラバス作成上の注意のみならず、記載された内容と授業との間に整合性をもたせるよう注意を促している。実際の整合性は、毎学期に実施している授業改善アンケートにおける「授業で教えられたことは、シラバス等で授業前に示されていた学習目標と合致していますか」という問いに対する学生の回答状況から確認することができる。なお、上記アンケートから得られた学部全体の結果については、各教員がそれを参照し、自らの授業づくりに役立てることを目的に、2013年度より文学部事務室にて閲覧できるようにした。</p>		<p>アンケートの結果から、シラバスに合致しない内容の授業や成績評価を行なったことが明らかになった場合は、その授業を担当する教員への早急の対応策が必要となる。</p>	<p>シラバス等に表示されていた学習目標と授業の整合性を学生に問うため、学部独自のアンケート調査等を実施する。また、教員に対してはそのアンケート結果を踏まえて、自らの授業方針を改善するよう、教授会を通して注意を促すようにする。なかなか改善がみられない場合は、文学部役職会等で具体的な対応策を協議する。</p>	<p>①現状の説明 4(3)-1-66 学生による授業改善のためのアンケート(設問用紙, 日本語・英語併記) 4(3)-1-75 明治大学データ集(表29)</p>	
c	<p>●単位制の趣旨に照らし、学生の学修が行われるシラバスとなるよう、また、シラバスに基づいた授業を展開するため、明確な責任体制のもと、恒常的にかつ適切に検証を行い、改善につなげているか。 【約400字】</p>	<p>シラバスについては、教務主任からの依頼に基づき、文学部事務室の担当職員が学期ごとにその記載内容を点検している。記載に不備があった場合は、各教員に個別に連絡し、記載内容を改めるように依頼している。この他、兼任講師を交えた教育懇談会においてもシラバスの記載内容について注意を促す等の配慮をしている【4(3)-5-4】。</p>					<p>①現状の説明 4(3)-5-6 教育懇談会開催通知</p>

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述	
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。						Alt+Enterで箇条書きに
(3) 成績評価と単位認定は適切に行われているか						
a	◎授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること。(成績基準の明示、授業外に必要な学習内容の明示、ミニマム基準の設定等、(研究科)修士・博士学位請求論文の審査体制) 【約400字】	シラバスに成績評価法の欄を設け、学生にその基準を明示し、教員がそれによって成績評価をしている。成績基準については2004年度入学者から全学的にGPAが導入・統一され、Sは100～90点、Aは89～80点、Bは79～70点、Cは69～60点、Fが不合格で59点以下となった。学生側に成績評価や単位認定に対する疑義が生じた場合は、事務室を通じて教員に照会することに対応している【資料4(3)-5-7】。				①現状の説明 4(3)-5-7 2013年度文学部便覧、28～29頁「学業成績」
b	◎既修得単位の認定を大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること。 【約100字】	海外の大学に留学した場合、学則に従い、留学先で修得した科目を60単位を限度に、それに近い文学部の授業科目に読み替え、単位を認定している。他大学からの編入学生に対しても、それまで在籍した大学の単位を本学の単位として認め、不利益を被らないように努めている。これらの作業は当該専攻の主任ならびに教務主任が行っている。				
(4) 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善（授業に関わるFD活動）に結びつけているか						
a	◎教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること。 【約800字】	教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした組織的な検討の機会として、それぞれの専攻が定期的に専任教員による教室会議を行っている。この会議では、たとえば教科書選定会議を通じ、教育内容や方法、教育の質の均質化等について検討がなされている。このほか、4月に兼任講師をも交えた教育懇談会を実施して専攻を超えた授業改善をめぐる話し合いを行い、より優れた授業のあり方を目指している【4(3)-5-8】。また、2013年度より教授会の冒頭でFD研修会を実施した。2013年度の研修会のテーマは「『学生が積極的になる活気のある授業』のための工夫」（講師：齋藤孝文学部専任教授）であり、出席者全員で実習を交えた研修を体験した（2013年7月22日）【4(3)-5-9】。なお、新任教員に対しては全学的なFD関連の研修や講演会への参加を求めている。学生の意見を教育内容の改善に生かすために、専攻の中にはゼミ幹事会を開催し、教育内容・教育方法の改善について学生間で問題点を討議させ、授業改善に役立てているところもある。たとえば日本史学専攻では6月に3年「演習Ⅰ」と4年「卒業論文」のすべてのゼミの幹事を招集している。ここでの学生側の意見にもとづき、2013年度から「日本史概論A・B」の担当を単独教員から専任教員全員によるオムニバス形式に改訂した。		教育内容・方法の向上を目指し、FD研修会をさらに充実させる必要がある。	学部内のFD委員会の答申にもとづき研修会を実施する。	①現状の説明 4(3)-5-8 教育懇談会開催通知 4(3)-5-9 2013年度FD委員会議事録（2013年4月27日開催）
b	●授業アンケートを活用して教育課程や教育内容・方法を改善しているか。 【約400字】	授業改善アンケートの実施については、全学のFD専門部会主導の授業改善アンケートの結果を教員個人が授業改善に取り入れ、学生アンケート結果のフィードバックをもとに個々の教員が授業改善を行っている。2013年度のアンケート実施は、前期が対象科目数935に対して実施科目数257（実施率27.5%）、後期が対象科目数936に対して実施科目数253（実施率27.0%）であった【4(3)-1-75：表29】。また、留学生については、授業に対する意見や希望等を聴取するため、毎年「留学生昼食会」を開催している。この昼食会においては、留学生の視点から本学のカリキュラムに対するさまざまな有益な意見が出されている。また、ライティング・チューターなどの文学部独自の留学生支援制度があまり周知されていない現実が明らかとなり、これを受けて、専攻別留学生の名簿を教授会で回覧し、授業で留学生を受け持つ教員に、学部の支援制度を周知するよう依頼するなど、これらの意見をくみ上げ、次年度以降の留学生への履修指導に活用している。				①現状の説明 4(3)-1-75 明治大学データ集 表29《既出2-3》
c	●教育内容・方法等の改善を図るための責任主体・組織、権限、手続プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。 【約400字】	教育内容や方法の改善に関する対応はFD委員会が行なっている。また教務課題検討委員会では、専攻ごとの教育内容の特徴を考慮し、問題点を十分に集約したうえで、カリキュラム全体の調整を行っている。教務課題検討委員会で検討された内容は、2015年度以降のカリキュラム改訂に反映させる予定である。				

第4章 教育内容・方法・成果 (4) 成果

点検・評価項目	現状の現状	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。							
(1) 教育目標に沿った成果が上がっているか							
a	<p>●課程修了時における学生の学習成果を測定するための評価指標を開発し、適切に成果を測るよう努めているか。</p> <p>【なし～400字程度】</p>	<p>教育課程を修了するにあたり、達成目標として、学生には(1)十分な専門性と幅広い教養を理解すること、(2)人間理解や異文化理解を深めること、(3)他者を尊重しながら自らの考えを冷静に主張すること、(4)社会全体を高める知力を体得することを求める【文学部学位授与方針】。この学習成果を測定する指標としてGPAを導入して合格最低点を60点、合格評定数を4としている【4(4)-5-1:29～30頁「学業成績」】。卒業時の学生の質を検証・確保する方途としては、まず、卒業論文を面接試験を含めて厳正に評価することによって、学生の質を確保するとともに、その学修の到達度を確認している。このほかに、卒業時にいたるまでの全在学生の履修率、GPA、就職率、原級率等を評価指標として調査し、次年度以降の卒業生の質の向上に向けて役立てるようにしている。年次毎の学生の質の検証・確保に関しては、GPAによって成績の平均の追跡が容易になった。</p>	<p>成績基準がGPAの導入により厳格で有効な基準となり、学生が単位数の確保のみならず高い評価を目指すようになった。さらに、文学部独自の方針として、学生全員に必修科目として卒業論文を課していること、またその執筆過程において指導教員との間で綿密な指導(集団および個別の両方を含む)を行っていることは、個々の学生の学修の質を向上させるうえで十分に効果が上がっていると考えられる。</p>			<p>①現状の説明 4(4)-5-1 2013年度文学部便覧、28～29頁「学業成績」《既出4(1)-1-7》</p>	
b	<p>●学位授与にあたって重要な科目(基礎的・専門的知識を総合的に活かして学習の最終成果とする科目、卒業論文や演習科目など)の実施状況。</p> <p>●学位授与率、修業年限内卒業率の状況。</p> <p>●卒業生の進路実績と教育目標(人材像)の整合性があるか。</p> <p>●学習成果の「見える化」(アンケート、ポートフォリオ等)に留意しているか。</p> <p>【約800字】</p>	<p>学習の成果として学位授与にあたり重視する科目として、各専攻とも、1年次から設定された「演習」と「卒業論文」を必修としており、卒業論文の合格には厳正な審査が行われる。また、考古学専攻、地理学専攻、現代社会学専攻ではフィールドワークを含めた実習を卒業要件に含めている。学位授与率は81.7%である【4(4)-1-16:表30】。</p> <p>学習成果の可視化に留意している事項として、カリキュラムにおいて実習を重視する専攻では、「実習報告書」の作成を必須としている。外国文化を専門とする専攻では、海外でゼミ合宿を実施したり、協定校に留学生を派遣したりすることにより、それらが卒論のテーマ決定に有効に機能している。多くの専攻においては、卒業論文の概要を『卒論要旨集』として冊子にまとめ、卒業生ならびに次年度の4年生に配布している(2013年度は文学部全13専攻中10専攻が実施)。</p> <p>2013年3月の就職実績は教育・学習支援業の9.8%が特徴的であるが、サービス業の16.2%を筆頭に公務員を含めた一般的な職への就職が普通となっており、業種に大きな偏りはない。総合的な教養力や語学力を効果的に活用し、実社会からの期待に応じている【4(4)-5-2】。</p>					<p>①現状の説明 4(4)-1-16 明治大学データ集 表30《既出2-3》 4(4)-5-2 文学部ホームページ「文学部の就職状況」URL: http://www.meiji.ac.jp/bungaku/employment/index.html</p>
c	<p>●学生の自己評価、卒業後の評価(就職先の評価、卒業生評価)を実施しているか</p> <p>【約400字～600字】</p>	<p>学生の評価については、「授業改善アンケート」および「学修環境に関する学生アンケート」を介して行っている。まず、授業に対する満足度は「授業改善アンケート」中の「この授業の満足度はどの程度ですか」「授業に知的関心をもったと思いますか」等の問いに対する回答から把握することができる。また「学修環境に関する学生アンケート」中の「あなたはカリキュラムに満足していますか」「あなたは、大学で学びたいと思ったことを学びましたか」等の問いに対する回答からは、4年間の学修の成果についての満足度が確認できる。これらの情報は、次年度以降のより効果的な授業の構築に向けて、各科目の担当者にフィードバックしている。</p> <p>就職先の評価、卒業生評価については、ゼミ出身の卒業生との懇親会を開いたり、就職支援講座で卒業生に講演をしてもらうなどの機会を通して、きめ細やかな情報の収集に努めている。</p>		<p>学部としては卒業生の声を集約する機会はないため、ゼミ単位で卒業生とさらに綿密に連絡を取るなどの対策が必要である。</p>		<p>今後、ゼミや専攻単位で卒業生との懇談会を企画したり、「進路選択支援講座」を密に行うなどして、卒業生からの情報を得る機会を増やしていく必要がある。</p>	

点検・評価項目	現状の現状	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述 (中長期的対応) H列にあれば記述		
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p> <p>(2) 学位授与(卒業・修了判定)は適切に行われているか</p>							
a	<p>◎卒業・修了の要件を明確にし、履修要項等によってあらかじめ学生に明示していること。 ◎学位授与にあたり論文の審査を行う場合にあっては、学位に求める水準を満たす論文であるか否かを審査する基準(学位論文審査基準)を、あらかじめ学生に明示すること。 【約200字】</p>	<p>文学部便覧に、卒業に必要な単位として128単位以上修得した者に「学士(文学)」を授与すると明示している【4(4)-5-1:16~19頁】。また入学時の新入生ガイダンス及び毎年各学年に実施しているガイダンスにおいてもその都度、3年次進級の条件や卒業要件、ならびに卒業論文の水準について十分な説明を行っている【4(4)-5-3, 4(4)-5-4】。学位授与にあたり、卒業要件の単位の充足と卒業論文提出が条件となっていることと、未完成の論文及び指定提出時刻に遅れた論文は受理しないことを便覧に明記している【4(4)-5-1:19頁】。</p>					<p>①現状の説明 4(4)-5-1 2013年度文学部便覧, 16~19頁 《既出4(1)-1-7》 4(4)-5-3 2013年度新入生総合ガイダンス資料(ガイダンススケジュール) 4(4)-5-4 文学部ホームページ「2013年度文学部4年生履修説明会(動画配信)」:URL</p>
b	<p>●学位授与にあたり、明確な責任体制のもと、明文化された手続きに従って、学位を授与しているか。 【約600字】</p>	<p>卒業論文の単位認定にあたっては、指導教員による厳格な指導や「中間報告」を経て、各専攻内で「面接」が実施される【4(4)-5-5】。そのうえで卒業要件の単位を修得した学生は「教授会」での卒業論文受理に関する厳正な審査を受け、承認されることにより学位の授与がなされる【4(4)-5-6】。多くの専攻では『卒業論文要旨集』が作成され、学位授与の適切性を公表している。</p>					<p>①現状の説明 4(4)-5-5 卒論面接に関する掲示 4(4)-5-6 文学部教授会議事録(2014年3月3日), 審議事項2</p>

第5章 学生の受け入れ

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>							
<p>(1) 学生の受け入れ方針を明示しているか (「AP」の全文記述は不要です)</p>							
<p>求める学生像の明示及び当該課程に入学するに当たり修得しておくべき知識等の内容・水準の明示及び社会への公表</p>							
a	<p>◎理念・目的、教育目標を踏まえ、求める学生像や、修得しておくべき知識等の内容・水準等を明らかにした学生の受け入れ方針を、学部・研究科ごとに定めていること。 ◎公的な刊行物、ホームページ等によって、学生の受け入れ方針を、受験生を含む社会一般に公表していること。</p> <p>【約400字】</p>	<p>文学部の入学者の受入方針において、求める学生像として次の4点を定め、さらに、各学科においても求める学生像を明示している。また、専攻ごとに志願者を募集するため、当該専攻分野に対する明確な問題意識や目的意識、強い学習意欲を持つ志願者を求めている。 ① 本学の建学の精神「権利自由・独立自治」を理解し、世界での活躍を見据えながら、他者や異文化を受容しつつ、確かな「個」の確立に意欲のある学生 ② 人と人のつながり、人と社会のつながりに関心をもち、人間の創作物や人類の過去、社会事象等のアプローチから人間学の探究に挑戦する意欲のある学生 ③ 他者との関わりの中で、独創的な生き方を模索し、新しい概念や価値観の創出を追究したい学生 ④ 専攻する専門領域において明確な問題意識や目的意識、強い学習意欲を持つ学生</p> <p>修得しておくべき知識等の内容・水準に関して、時代や地域を越えて、人間を普遍的かつ総合的に理解するためには、高校における多様な科目の学習が重要であると明記し、特に国語、外国語、地歴の3教科について、より高度な学習達成度を受験生に求めている【5-5-1】。 入学者の受入方針の公表について「入学試験要項」及び大学ホームページにおいて公開し、またオープンキャンパス、高校訪問などの機会を利用した周知も行なっている。【5-5-2】【5-5-3】。</p>	<p>面接に臨んだ委員の報告から、アドミッションポリシーが受験者に浸透していることが分かる。</p>	<p>入学以前に一般入試の受験者への浸透度を測ることは困難である。</p>	<p>面接時には本学部のアドミッションポリシーが正しく理解されているかを必ず問う旨を「文学部特別入試等面接試験ガイドライン」に明文化する。また、面接委員向けの採点表にアドミッションポリシーの理解についての項目を加えるなど、受験生の理解を客観的に記録する方法を、入試制度検討委員会等の審議項目とする。</p>	<p>一般入試の受験者へアドミッションポリシーをより浸透させるため、「入学試験要項」、大学ホームページの記載法を精査、改善する。</p>	<p>①現状の説明 5-5-1「教授会議事録(2013年11月11日)」 5-5-2 2014年度明治大学入学試験要項(学部一般入試、センター利用入試、全学部統一入試) 5-5-3 大学ホームページ「教育情報の公表：アドミッション・ポリシー、入学者数・在学生数、卒業・就職状況等</p>
<p>障がいのある学生の受け入れ方針と対応</p>							
b	<p>●該当する事項があれば説明する</p> <p>【約200字】</p>	<p>障がいのある学生から受験の申し出があった場合、入学センターと連絡を取りつつ、受験の段階から個別の障がい特性に応じた配慮をしている。具体的には、学部事務室が当該学生から具体的な要望事項を直接、聴取し、これを教務主任及び役職者会で協議することにより、本学の体制で可能な限り対応することとしている。2014年度文学部一般選抜入試においても要望に対処した。また実際に入学を決定した要支援学生の要望にも可能な範囲の対応を行なっている。</p>					
<p>(2) 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っているか</p>							
a	<p>●学生の受け入れ方針と学生募集、入学者選抜の実施方法は整合性が取れているか。(公正かつ適切に学生募集及び入学者選抜を行っているか、必要な規定、組織、責任体制等の整備しているか)</p> <p>【約400字】</p>	<p>本学部では入学者の受入方針に基づき多様な人材の確保を目的とし、次のとおり複数の入学形態及び試験方法を持っている。一般入試として、①一般選抜入試(3科目型)、②大学入試センター試験利用入試(3科目方式および5科目方式の前期日程、3科目方式の後期日程)、③全学部統一入試(3科目型)を実施している【5-5-2】。特別入試として、④自己推薦特別入試(第一次書類選考、第二次小論文・面接による二段階選考)、⑤社会人特別入試(小論文及び面接)、⑥外国人留学生入試(第一次書類選考、第二次口頭試問による二段階選考)、⑦スポーツ特別入試(書類選考及び面接)を実施している【5-5-4】。推薦入試として、⑧指定校推薦入学試験(書類選考と面接)、⑨付属高等学校推薦入試(面接)を実施している。本学部出題の一般選抜入試では、本学部が要求する学習達成水準をはかる上で適切な作問であることを、外部評価を得ることで確認している。面接を課す入試においては、「文学部特別入試等面接試験ガイドライン」【5-5-5】を作成することで、各面接試験会場において対応に大きな差異が生じないこと、面接が公正かつ適正に実施されることを担保している。</p>		<p>付属高等学校推薦入試における国公立大学併願者の位置づけに関して、付属高等学校側と大学側の理解に齟齬のあることが判明した事実があった</p>	<p>推薦入試後、速やかに、当該高等学校の担当者と教務主任とで話し合いを持ち、問題の所在、原因、解決法を確認した。</p>		<p>①現状の説明 5-5-2 2014年度明治大学入学試験要項(学部一般入試、センター利用入試、全学部統一入試) 5-5-4 2014年度特別入試要項(学部特別入試) 5-5-5 文学部特別入試等面接試験ガイドライン</p>

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>							
<p>(3) 適切な定員を設定し、入学者を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適切に管理しているか</p>							
<p>収容定員に対する在籍学生数比率の適切性</p>							
a	<p>◎学部・学科における過去5年の入学定員に対する入学者数比率の平均が1.00である。また、学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率が1.00である。 ◎学部・学科における編入入学定員に対する編入学生数比率が1.00である(学士課程)。</p> <p>【約200字】</p>	<p>過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の学部平均は1.407で、学科ごとの比率は、文学科1.04、史学地理学科1.12、心理社会学科1.06である【5-5-6】。 また、2014年度の収容定員は4学年で3100名、在籍学生数は3373名であり、収容定員に対する在籍学生数比率は1.08である。学科ごとの比率は、文学科1.07、史学地理学科1.13、心理社会学科1.04である【5-5-6】。</p>	<p>2011年度の専攻別入試導入以降のデータ蓄積および手法の精緻化により、手続き率予想が以前にも増して正確になった。</p>	<p>センター試験利用入試の手続き率が低い。</p>	<p>年度毎の変動傾向、当該年度の受験生動向などを踏まえ、合格者数の算出を一層正確にする。</p>	<p>手続き率の低いセンター試験利用入試の位置づけに関しては引き続き検討を要する。</p>	<p>①現状の説明 5-5-6 「学生・生徒現員、定員(入学定員・収容定員)数及び収容定員に対する比率(2014年5月1日現在)」 5-5-7 「入学者数推移及び入試形態別入学者数(2014年5月1日現在)」</p>
<p>「J」</p>							
b	<p>◎現状と対応状況</p> <p>【約200字】</p>						
<p>(4) 学生募集及び入学者選抜は、学生の受入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか</p>							
a	<p>●学生の受入れの適切性を検証するに当たり、責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させ、改善につなげているか。</p> <p>【400字】</p>	<p>入学者の受入れ方針の運用の適切性および入学試験との整合性について教授会で審議をしている(2013年度は2013年11月11日の教授会にて審議)。合格者の決定については、入試実施委員会、役職者会、学部運営協議会、の複数の段階で精査をしている。入学試験の内容・選抜方法は、常設の入試制度検討委員会(2013年度は全6回開催)及び各年度の入試反省会(2013年度は2014年3月24日開催)の議論に基づき教授会で審議・決定される(2013年度は2014年2月10日開催の教授会にて審議)【5-5-8】。2014年度は「学生の受入れ方針」上、類似した位置を占めていた帰国生特別入試と自己推薦特別入試の一本化を行ないポリシーの明確化を図った。</p>					<p>①現状の説明 5-5-1 「教授会議事録(2013年11月11日)」 5-5-8 「教授会議事録(2014年2月10日)」</p>

第6章 学生支援のうち修学支援及びキャリア支援

点検・評価項目 ◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。	現状の説明 ○列の点検項目について、必ず記述してください	評価		発展計画		根拠資料 Alt+Enterで箇条書きに
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている」点 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
(1) 学生支援に関する方針を定め、学生への修学支援は適切に行われているか						
a ●修学支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。 【約200字】	学生支援の目的は、良好な大学の教育研究環境そのものを確保するために、学生への修学支援を充実させることである。その修学支援を充実させるために、文学部では、学部教育目標である「充分な専門知識を身につけた幅広い教養人の育成」を達成するため、カリキュラムの大きな柱として、「少人数ゼミ教育」を1年次から4年次まで各年次に配当し、学生に対し、きめ細かい修学支援を行っている。この方針については、教授会で学生便覧及び文学部ガイドを配布し、共有している【6-5-1~4】。					6-5-1 文学部学部ガイド2014 6-5-2 2013年度学生便覧 6-5-3 2013年度第1回教授会議事録 6-5-4 2013年度第3回教授会議事録
b ●方針に沿って、修学支援のための仕組みや組織体制を整備し、適切に運用しているか。 ○留学者、休退学者の状況把握と対応 ○障がいのある学生に対する対応 ○外国人留学生に対する対応 ○学生支援の適切性の確認 【約400字～800字程度】	①留学者・休退学者の状況把握と対応 ・教授会にて学籍異動についての審議・承認が行われている【6-5-5~10】。 ・クラス担任制度をとっており、専攻による専任教員によってきめ細かな修学およびその他の支援が行われている。 ・1・2年生を主たる対象として、外国語や専門科目の講義内容の理解が十分でない学生、および修学に関するその他の疑問や不安を抱える学生に、学習支援室において学部助手およびTAが適切な指導と助言を行っている【6-5-6】。 ・退学理由の把握については退学届を受理する際に可能な範囲で事務職員が事情を聴取し、必要があれば役職者や教授会に報告している。 ・不登校学生には、授業等を通して当該学生の出席状況を把握しているクラス担任等教員からの要請により、事務職員が掲示や電話による呼び出しなど積極的にコンタクトを試み、場合によって教員も直接対応している。 ②障害のある学生に対する措置・仕組み ・障がいに応じた支援体制を教務主任及び学生の所属専攻教員が対応し、所属専攻学生および学部事務室の協力を得て作っている。 ・障害者支援に関わる実績等について教授会にて報告を行っている【6-5-7】。 ③外国人留学生に対する措置・仕組み ・国際交流委員会が主体となり、「文学部外国人留学生特別支援」としてチューター制度を設け、学部生及び大学院生により個別の課外支援を行い、留学生の学習・研究成果の向上及び環境への適応を図っている【6-5-10~11】。 ④学生支援の適切性の確認方法 ・ゼミナール会合費を活用し、ゼミナール単位で懇談会を実施している。 ・国際交流委員会が主体となり留学生を対象として、昼食会を実施している。 ・学生間の交流を計るために、学生が主体となって運営する文学部スポーツ大会を実施している。この文学部スポーツ大会は、教授会報告事項として学部教員に周知している。実施にあたっては文学部職員がサポートし、運営費を援助している【6-5-12~14】。	現状において、大きな問題はみられではないが、未然防止として一定の効果を得られているかどうかの具体的な検証が行われていない。	現状での取り組みに対しての効果に対する検証方法について検討を行う。	学生の修学支援を主とする委員会等の設置を検討する。この委員会の役割は、多様な学生に対する修学支援の方策についての検討と、その方策に対する検証を行っていくことである。	6-5-5 2013年度第7回教授会議事録 6-5-6 2013年度第3回教授会議事録 6-5-7 2013年度第8回教授会議事録 6-5-8 2013年度第9回教授会議事録 6-5-9 2013年度第11回教授会議事録 6-5-10 2013年度第13回教授会議事録 6-5-11 2012年度第15回教授会議事録 6-5-12 2013年度第12回教授会議事録 6-5-13 2013年度第4回教授会議事録 6-5-14 文学部スポーツ大会が開催されました (http://www.meiji.ac.jp/bungaku/info/2013/6t5h7p0000gdvb7.html)	

2013年度文学部 自己点検・評価報告書

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている」点 に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述	
<p>◎…法令等の充足を評価する項目です。 ●…学部等が掲げる方針や目標の達成状況を評価する項目です。</p>	<p>C列の点検項目について、必ず記述してください</p>					<p>Alt+Enterで簡易書きに</p>
<p>a ●進路支援に関する方針を、理念・目的、入学者の傾向等の特性を踏まえながら定めているか。また、その方針を教職員で共有しているか。</p> <p>【約200字】</p>	<p>進路支援の目的は、学生への進路支援を充実させることである。そのために、学部教育とのバランスがとれた就職活動支援を行うために、就職・キャリア面での学生の意識向上を図るとともに、実際の就職活動の支援および、大学院等への進学希望者には正確な情報を与え指導を行っている。支援講座や相談会、セミナー、ガイダンス等の開催については、教授会にて報告され、共有されている。</p>					<p>6-5-5 2013年度第7回教授会議事録 6-4-6 2013年度第3回教授会議事録 6-5-15 2013年度第5回教授会議事録 6-5-16 第一回進路選択支援講座が開催されました (http://www.meiji.ac.jp/bungaku/info/2013/6t5h7p0000gg89a.html) 6-5-17 2013年度第2回教授会議事録</p>
<p>b ◎学生の進路選択に関わるガイダンスを実施するほか、キャリアセンター等の設置、キャリア形成支援教育の実施等、組織的・体系的な指導・助言に必要な体制を整備していること。</p> <p>【約400字～800字】</p>	<p>進路支援の取り組みとして、以下を実施した。 ① 就職キャリア支援センター主催 ・3年生を対象としたゼミナール別進路相談会【6-5-17】 ・3年生及び博士前期課程1年生を対象とした就職・進路ガイダンス(参加者数746名、参加率91%)【6-5-15、6-5-5】 ・就職活動直前セミナー【6-5-5】 ② 国際連携部主催 ・海外留学カウンセリング【6-5-6】 ③ 文学部主催 ・2013年度に4回の進路選択支援講座【6-5-18】 ・1・2年生を対象とした進路選択支援講座「文学部での学びとキャリアデザイン～文学部・大学院・就職・生涯学習～」【6-5-16】 ・主として3年生を対象とし時事能力検定試験の受験料助成(学生負担2000円のみ)を行っている【6-5-19】。 ・2013年度就職筆記試験対策テスト及び就職適性検査の実施に伴う休講措置を承認した【6-5-6】。 ・進路連絡票の提出状況について教授会にて報告(2013/12/10教務部委員会の報告事項)を行った。本学部の進路把握率は22.76%(全学39.38%)であった【6-5-7】。 ・2013年度より「インターンシップ」について単位認定することとした【6-5-20】。 ・2013年度以降入学者に対し、グローバル人材育成プログラム科目(短期海外実習・海外実習・長期海外実習・海外実習課題研究)の履修を認めた。ただし、当面は卒業に必要な単位数には含まないこととした【6-5-21】。 ・2014年度より「留学促進プログラム」を実施することとした【6-5-22】。 ・2015年度よりこれまでに開催していた「進路選択支援講座」を「キャリアデザイン」とし、単位認定することとした【6-5-23】。</p>		<p>文学部独自の進路支援が不十分である。 進路支援の取り組みに対しての検証が充分に行われていない。 文学部における進路把握率が他学部と比べると低調である。</p>	<p>多様な学生に対する「進路選択支援講座」の充実を図るとともに、講座開催の周知徹底およびより多くの学生が受講しやすい環境作りを策定する。</p>	<p>学生の進路支援を主とする委員会等の設置を検討する。この委員会の役割は、全学的な進路支援と有機的になるような学部主催の進路支援について検討・実施、進路支援の取り組みに対しての検証、進路把握率を高めるための方策の検討・実施を行っていくことである。</p>	<p>6-5-17 2013年度第2回教授会議事録 6-5-15 2013年度第7回教授会議事録 6-5-5 2013年度第3回教授会議事録 6-5-18 2013年度「文学部進路選択支援講座」のお知らせ 6-5-16 第一回進路選択支援講座が開催されました (http://www.meiji.ac.jp/bungaku/info/2013/6t5h7p0000gg89a.html) 6-5-19 各種検定試験の助成について (http://www.meiji.ac.jp/bungaku/okusyoku/examination.html) 6-5-7 2013年度第8回教授会議事録 6-5-9 7 2013年度第11回教授会議事録 6-5-20 2011年度第10回教授会議事録 6-5-21 2013年度第10回教授会議事録 6-5-22 2014年度文学部学生便覧 6-5-23 教務課題検討委員会議事録</p>

第10章 内部質保証

点検・評価項目	現状の説明	評価		発展計画		根拠資料	
		効果が上がっている点 F列の現状から記述	改善を要する点 F列の現状から記述	「効果が上がっている点」に対する発展計画 G列における伸張項目	「改善を要する点」に対する発展計画 (当年度・次年度対応) H列にあれば記述		(中長期的対応) H列にあれば記述
(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか							
a ◎自己点検・評価を定期的 に実施し、公表していること 【約400字】	本学部における自己点検・評価は、学部内に設置された文学部自己点検・評価委員会によって行われている。本委員会は学科長や教務主任、学生部員の経験者を中心に全7名で構成している【10-5-1】。メンバーには、現状の問題を熟知し、かつ評価結果を学部教育の改善に活かすべく、役職会のメンバーや学部内の常設委員会の委員長が含まれている。また、中間報告の機会を設け、その際には学部長や事務長の出席を求めている。 2013年度は年3回委員会を開催し（2013年4月22日、5月13日、5月20日）【10-5-3】、「2012年度文学部自己点検・評価報告書」を作成した。同報告書は学部役職会（2013年6月17日）で了承されたのち、2013年6月24日の教授会審議に付し、7月22日の教授会で了承された。その後全学の手続きを経て、ホームページで公開している【10-5-2】。		報告書の作成は主に内部資料に基づいて行われるにとどまり、学生の実態を把握するためのアンケート調査などの活用が求められる。		学部独自に調査を行うのは負担が大きいため、自己点検・評価全学委員会が実施する「学修環境に関する学生アンケート」の結果の二次利用を予定している。	10-5-1 文学部各種委員会名簿 10-5-2 大学ホームページでの公表の状況（2011年度点検・評価報告書 http://www.meiji.ac.jp/koho/about/hyouka/index.html ） 10-5-3 2013年度第1回委員会議事録（2013年4月22日開催）	
(2) 内部質保証システムに関するシステムを整備し、適切に機能させているか							
a ●内部質保証の方針と手続を明確にしていること。 ●内部質保証をつかさどる諸組織（評価結果を改善）を整備していること ●自己点検・評価の結果が改革・改善につながっていること ●学外者の意見を取り入れていること ●文部科学省や認証評価機関からの指摘事項に対応していること 【800字～1000字程度】	本学部の内部質保証の基本方針は、「自己点検・評価委員会」を責任主体とし、同委員会は評価結果及び改善方策を学部長に報告するものとしている。報告書を受け取った学部長は、役職会において整理した後、学部内各種委員会に審議依頼し、改善の具体化を促している。その後の改善状況は各種委員会から学部執行部および教授会に報告され、進捗状況を点検する体制がとられている。また、自己点検・評価の作業を見据え、継続的に資料を蓄積するとともに、情報を共有するため、クラウドを活用している。クラウドには教授会ほか各委員会の議事録、内規、学部作成の各種資料のほか、各年次の自己点検・評価報告書を蓄積し、随時リモートで参照できるようにしている。ただし、セキュリティに一抹の不安があるため、アクセスできる人間を限定している。 2013年度に評価結果を受けて学部長が学部内の各種委員会に審議依頼した事項は「カリキュラムの改訂と外国語教育の充実」「特別入試の改革」「国際交流の促進」の3点であり【10-5-4】、2013年度の政策的経費要求書として、新たな政策を立案し必要な経費要求を行った【10-5-5】。また、中長期的な課題として「新専攻の設置」について、新専攻設置検討委員会を立ち上げて検討を始めた。学外者の意見については、父母会との交流が特筆される。入学時における父母懇談会の実施【10-5-6】の他、毎年度、全国各地で行われる父母懇談会では、2013年度でも文学部職員が個別相談を行っており、父母から意見は、担当者を当して学部執行部にまとめられると同時に、関連する学内各部署に通知している。 前回認証評価時（2007年度）の助言・指摘において国際交流の不足を指摘されたが、2010年度に常設の「国際交流委員会」を設置し、着実に実績をあげている。また、2013年度よりFD委員会を設置し、授業の活性化の方策（2013年7月22日）、ハラスメントの防止（2013年10月21日）、授業のための話し方（2014年4月26日）など、継続的に研修の機会を設定している【10-5-7】。	国際交流委員会は、これまでに海外3大学との学部間協定を締結したほか、海外大学との教育・研究交流、外国人留学生との交流会（昼食会）の開催、外国人留学生特別支援チューターの設置、海外ゼミ合宿の支援などを政策的経費により行っている。社会貢献の一環として、高校生及び社会人を対象とした「明治大学文学部読書感想文コンクール」を2010年度より実施している。	外部の視点を取り入れる取り組みが欠けている。	国際交流委員会の答申にもとづき、2014年度から特任教員を採用して「留学促進プログラム」を開始した。その成果を判断するには至らないが、継続的に実績を積み、派遣留学生の増加に結び付けていく予定である。「読書感想文コンクール」は、それなりに社会に定着し、また学部あげての実施体制も確立されたので、予算削減の厳しい情勢ではあるが、着実に継続していく予定である。	父母会や企業との就職懇談会、各専攻・ゼミの同窓会の席上などで参加者と積極的にコンタクトをとり、文学部に対する意見を収集していく。	自己点検・評価活動の意義を多くの教職員に理解してもらうための工夫・啓発活動、およびより多様な視点を交えた自己点検・評価のあり方を2015年度を目途に検討していくこととする。	10-5-4 学部長審議依頼事項 10-5-5 政策経費要求書 10-5-6 父母懇談会スケジュール 10-5-7 研究会の案内